SUSTAINABLE WEEK

SUSTAINABLE WEEK SUPPORTS SDGs

We are SDGs leaders,

2018 年度　活動報告書

Contents

PAGE

2　実行委員長より、SDGs について

1 章　Sustainable Week について

3　Sustainable Week 2018 開催の背景
Sustainable Week の理念

4　SDGs 5P チームについて

2 章　Sustainable Week 2018 までの企画

5　プレイベント

6　立命館地球市民会議

7　Towards Sustainable Week 2018～ 立命館から世界へ ～

3 章　Sustainable Week 2018 実施企画

9　概要

11　参加団体企画

37　協賛企画一覧

4 章　Sustainable Week 2018 の成果

41　参加者アンケートの結果、考察

42　関係者講評

5 章　Sustainable Week 2018 を終えて

43　Sustainable Week 2018 総評

44　2019 年度の方針、謝辞

45　2018 年　活動の軌跡

多くの人と共に、SDGs に取り組んでいく

近年、世界的に SDGs 達成に向けた取り組みが行われ、日本国内でも SDGs に沿った事業が増えています。そのような時代の流れの中、2017 年に「Sustainable Week」を初開催しました。これは学生主体で行う初の SDGs 体験型イベントとのことで話題となりました。

私は 2017 年度から Sustainable Week に携わり、SDGs は様々な方々がこの取り組みに関わってこそ達成されるものだと考えるようになりました。そして実行委員長として多くの方と共に、SDGs に取り組みたいと考えました。

実行委員長になってからは、多くの方に SDGs を知り、理解してもらうため、年間を通した企画プログラムを立案しました。

実際に、4 月・5 月・6 月に SDGs を知る・伝える・実践するという段階を踏んだ企画を実施しています。このような企画によって、2018 年度は徐々に SDGs に関わる方を増やし、理解も浸透させることができたと感じています。

この成果もあってか Sustainable Week 2018 では企業・行政・市民高校生・大学生など様々な方々と共に企画立案から関わらせていただくことができました。

Sustainable Week 2018 の特徴は多くの方を巻きこめたことだと考えています。本報告書では、2018 年度に私達が活動してきた事をまとめています。この報告書を、たくさんの方に読んで頂き、SDGs の輪をどんどん広げて行きたいと考えております。

Sustainable Week 2018 実行委員長
立命館大学生命科学部 3 回生
切田　澄礼

Sustainable Development Goals とは？

国連は、2015 年 9 月に開催された国連持続可能な開発サミットにおいて、人間、地球および繁栄のための行動計画として 17 の目標と 169 のターゲットからなる、誰 1 人取り残さない「持続可能な開発目標（SDGs）」を掲げた。これは、2000 年から 2015 年まで世界の開発の指針となっていた「ミレニアム開発目標（MDGs）」の成果を土台としている。MDGs の目標が 8 つで 21 ターゲットであったことや、対象が発展途上国であったことに比べ、SDGs のカバーする範囲は先進国も巻き込んだ世界中に広がっており、全世界で取り組んでいかないと達成できない状況になっている。それにあたり、大学の世界ランキングの評価項目に SDGs が 2019 年から追加されたりと、教育機関でも SDGs を推進していく動きがみられる。

近年、日本でも SDGs への取り組みは急激に加速化してきている。2020 年に行われる東京オリンピック・パラリンピックや、2025 年に開催される 2025 大阪・関西万博では、SDGs に積極的に取り組んでいくことを宣言している。達成期限である 2030 年を目指して、世界が一致団結して取り組んでいく土台が出来上がりつつある。

↑国連が制定した SDGs

↑近年の社会における SDGs の流れ

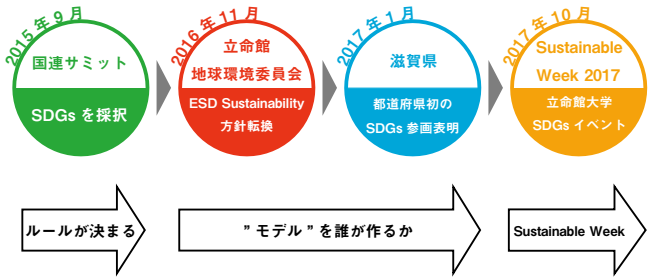
1 章 Sustainable Week について

Sustainable Week 2018 開催の背景

近年、地球規模の課題への取り組み SDGs (Sustainable Development Goals) に対し、欧米諸国は、企業や行政が中心となり取り組みを始めた。その流れに合わせ、立命館地球環境委員会や滋賀県も「持続可能性」に向けて取り掛かった。

このような時代の流れをくみ取り、立命館大学びわこ・くさつキャンパスを小さな地球に見立た Sustainable Week を 2017 年の 10 月 1 日～ 10 月 6 日に開催した。ここでは、学生自身ひとりひとりのやりたいことと、社会課題との繋がりを各自で解釈し、SDGs の 17 の目標達成に向けて体験型の企画を行う場所とした。このイベントには、参加団体 26 団体、来場者数約 2,300 名が参加した。

Sustainable Week 2017 を通じて、SDGs は多くの人々と取り組まなければ 2030 年までに達成できないことがわかった。また、2018 年の 3 月に SDGs 達成のために、次世代を担っていく若者の活動を後押しするための SDGs アイデアコンテストである第 1 回大学 SDGs ACTION AWARDS が開催された。このコンテストで当団体が提案した「宗教の違いを超えて誰もが食べることができる SDGs カレー」がグランプリを受賞した。



そして、Sustainable Week 2018 を開催するにあたり、当団体は社会的に評価されつつも、さらなる拡大、展開をしていく必要があった。そこで、大学の中で SDGs 達成に取り組んでいく先駆者として、自身の持っているスキルやマインド・システムをキャンパスを軸に人から人へ伝えていこうと考えた。その思いを込めて、「We are SDGs leaders,」をテーマに掲げ、Sustainable Week 2018 を、2018 年 10 月 14 日～ 10 月 16 日に開催した。

なお、このテーマは、末尾に「,」がついている。これは、私達に追随する SDGs リーダーが現れるようにとの思いを込めて、文法的に今回限りでテーマが終わらないようにとの思いでこのようにしている。

Sustainable Week の理念

Vision

大学を核として、周辺地域を巻き込む増殖型 SDGs エコシステムを創造する。

Mission

学生同士が連携し、社会と繋がりながら、主体的に課題解決に取り組む次世代の SDGs リーダーになる。

Value

学生が持続可能について深く考え、自己表現できるサステイナブルキャンパスを実現し、そこから社会解決に向けた提言を行う。

当団体が活動するうえで Vision・Mission・Value の 3 つを掲げた。Vision は Sustainable Week に関わった学生達が、私達のマインドやスキル・システムを活用し、新たなフィールドで活躍できる増殖型 SDGs エコシステムを創造することを目指している。また、Mission は Sustainable Week に関わった学生達が、それぞれの活動をもとに SDGs 達成に向けて取り組む次のリーダーとして活躍する事を目指している。その Value として、Sustainable Week は、学生が自分自身の取り組みを表現する場として機能していくことを考えている。

実際 Sustainable Week 2018 に参加している団体の中には、Sustainable Week 2017 で活躍した先輩方が立ちあげた団体が、入っている現状があり、少しずつではあるが VIsion 達成に向けて活動を重ねている。

SDGs 5P チームについて

SDGs の考え方のひとつに、「5 つの P」というものがある。これは People Planet Prosperity Peace Partnership の頭文字を取ったものである。人間 (People) は、人権や貧困、飢餓に関する課題から、ジェンダー平等や教育、健康まで幅広い範囲の目標を指している。地球 (Planet) は、環境問題に関する目標を、そして豊かさ (Prosperity) は、経済や社会、技術に関する目標のことである。さらに、平和 (Peace) は、平和で、暴力のない世界を目指すことを指している。パートナーシップ (Partnership) は、多様な関係者が参加してパートナーシップにより実現を目指すことを指している。この「5 つの P」を意識しながら SDGs 達成を目指すため、Sustainable Week 2018 では参加団体を People-Partnership チーム、Prosperity チーム、Planet-Peace チームの 3 チームに分けた。

People-Partnership チーム

「人」を基軸に、様々な社会的要素との繋がりを考えることを目的に企画を行った。科学的なテーマからゲーム、社会問題、食、情報系まで、様々なテーマをもったグループが協力し合うことで斬新な企画を生み出そうと工夫した。自チームには Sustainable Week 2018 の事前イベントで発案された企画が多数属しており、学生と企業との協力も生まれた。

チーム目標
「人と人とが協力し、未知で多様性のある世界を作り出そう！」

Prosperity チーム

繁栄という視点から SDGs を考えてもらうチームである。世間一般的に「難しい」ものであると感じられがちなテーマ (起業や電子工作など) であっても「身近で楽しい」ものであると認識してもらえるような企画が多かった。企画前に説明を行うことでより多くの人に企画を楽しんでいただくように工夫した。

チーム目標
「馴染みのない世界を旅することから、関心を呼び起こす」

Planet-Peace チーム

環境や平和を維持するためには世界中の人々がやさしさや思いやりの心をもつことが必要だと考え、各企画を通してすべての人にその必要性を「知ってもらう」ということを大切にしながら企画を実施した。ものを作る、体験する、地域の食材を食べる、ラリーをまわるなど、参加者の方々が実際に体を動かすことで楽しめる企画を行った。

チーム目標
「やさしい世界を創るためにすべての人に
環境と平和の大切さを知ってもらう」

2 章 Sustainable Week 2018 までの企画

段階的に SDGs の理解を深める企画プログラム

2017 年度は SDGs 体験型イベントである Sustainable Week の開催を目指して活動を行った。その結果、事後アンケートによるとイベント参加学生の主体性は向上した一方、立命館大学びわこ・くさつキャンパス一般学生の SDGs 認知度向上があまり見られなかった。この原因として SDGs 体験型イベントを単発で開催したのみであったからと考えた。これを受けて 2018 年度では Sustainable Week のみにとどまらない、年間を通したプログラムを実行した。このプログラムで、SDGs の認知拡大と理解浸透のため、SDGs を知り、伝え、考えたものを Sustainable Week 2018 で発信する仕組みを構築した。その中で、附属校生や企業・行政と意見交換や企画立案を行い、幅広い分野の人々を巻き込むことにより、SDGs を様々な視点から捉えることができた。

↑企画プログラムの流れ

プレイベント

企画内容

学生団体 SOIL & SOUL が作成した立命館版 SDGs ボードゲームを使って、「SDGs を遊びながら知ってもらうこと」を目標に企画を実施した。これにより SDGs に対する敷居を低くし、様々な学生に気軽に参加してもらうことを狙いとした。ボードゲームは、SDGs をあまり知らない人でも楽しめる形と SDGs を知っている人が議論しながらゲームを進める形の 2 種類を用意した。本企画は、立命館大学の 3 キャンパス（衣笠、びわこ・くさつ、大阪・いばらき）で開催した。

↑企画の様子 (びわこ・くさつキャンパス)

企画成果・今後の目標

本企画は、立命館大学の 3 キャンパス（衣笠、びわこ・くさつ、大阪・いばらき）で初めて行うことができた企画であった。2017 年度はびわこ・くさつキャンパスのみで企画を開催したため、2018 年度はキャンパスを超えて SDGs を広めることができた。また、本企画で開発した立命館版 SDGs ボードゲームを活用し、SDGs への敷居をなくしていきたいと考えている。

↑集合写真 (衣笠キャンパス)

立命館地球市民会議

2018年5月11日

企画内容

立命館高校生が、SDGsを自らの興味関心や専門分野に関わらせて活動する大学生について知ることで、私たちのマインドを伝える機会を設けた。企画前半では、今活躍している大学生の講演を聞き、後半では、SDGs座談会と称した大学生の生の声を聞くことが出来る小グループに分かれて、意見交換を実施した。これにより、SDGsをより深く学ぶきっかけを高校生に提供した。立命館大学で開催されるSustainable Weekなど、進学先の大学でのSDGsの取り組みに積極的に参加することが期待できると考えている。

企画成果

●参加人数　90人（大学生11人、高校生79人）

この企画をきっかけに、後に行われた「Towards Sustainable Week 2018 ～立命館から世界へ～」に高校生が参加したりと、大学生と高校生の繋がりを深めることができた。高校生の感想として、「自分と年齢が4つほどしか変わらない先輩が、あんなに打ち込めることがあって、自ら団体を作り、様々な所へ行っていて、その行動力に驚いた。また、大学ではいろんな考え方を持った人達と出会えることがいいと思った」など、高校生にとって積極的に物事に取り組むきっかけになったのではないかと考える。

企画目標

高校生が授業で学ぶSDGsが、実際に社会ではどのように使われているのかをより深く学べるように、高校生自身が、大学生で何か活動をするときの幅を広げることを目指した。また、立命館大学と立命館高校それぞれの学生がSDGsを通してつながることで、一貫教育の新たな学び方を構築できることを期待した。

今後の目標

今回の企画は当団体内で初の大学生と高校生との協働企画であり、SDGsを通じて今まであまりなかった「縦」の繋がりを強化することができた。立命館高校もSDGsを授業で取り上げたりと積極的に活動しているため、今後もこの繋がりを保ち共にSDGsの輪を広げていきたいと考えている。

Towards Sustainable Week 2018 ～立命館から世界へ～

2018 年 6 月 16 日～ 17 日

企画内容

SDGs について学んだ大学生や高校生、行政職員や企業の方などでチームを作り、SDGs を達成するために「自分たちに何ができるか」を考え、Sustainable Week 2018 に向けた企画を立案する「企画立案型ワークショップ」を行った。このワークショップで班毎に企画を立案し、実際に Sustainable Week 2018 では全ての班の企画を実施した。本企画は花王株式会社に協賛していただき、実施することができた。また、2018 年 3 月に「大学 SDGs ACTION! AWARDS」でグランプリを頂いた「誰一人取り残さない SDGs カレー」の改良版を試食として提供し、多くの意見をいただくこともできた。

企画成果

●参加人数　38 人

学生・行政・企業と一緒に企画を考えることで様々な方面から企画を見直し、学生のみでは考えられないような企画を考案することができた。また、当初の目標通り、すべての企画を Sustainable Week 2018 で実現させることができた。さらに、ABD 読書法というワークショップ方法を用い、2017 年度の報告書を読み込んで Sustainable Week の活動を学ぶことで、当団体についてたくさんの意見もいただくことができた。

企画目標

SDGs や Sustainable Week 2017 の取り組み、協賛してくださった花王株式会社の SDGs に対する取り組みを学び、SDGs 達成を目標として企画を立案した。花王株式会社や草津市職員・立命館高校生などのダイバーシティ豊かな人々がチームとなって、Sustainable Week 2018 に向けて企画を遂行した。

今後の目標

今回ご協力してくださった花王株式会社や草津市役所・立命館高校との繋がりをこれからも持ち続け、SDGs の輪を企業や行政・高校生にも広げていくつもりである。また、今回用いた ABD 読書法を今後も活用し、SDGs に関する書物を用いた SDGs 勉強会を定期開催し、様々な知識をつけていきたいと考えている。

コラム：東大・京大ワークショップの開催

2018 年 3 月 20 日に「東大×京大ワークショップ」を行った。この企画は、「Sustainable Week 2018」に向けての実行委員会が本格始動する前に、Sustainable Week に対する他大学の意見を頂く機会を設け、並びに SDGs に取り組む他大学の事例を各大学で共有する事を目的としたものである。この企画には、東京大学の TSCP 学生委員会と京都大学のエコ～るど京大の学生が参加し、大学とともに学生から SDGs に取り組んでいく今後の活動のあり方について話し合った。2018 年度の実行委員会が活動を始めていくにあたり、すでに実践している学生からたくさんの意見や気づきをいただくことができ、とてもいい刺激を得ることができた企画であった。

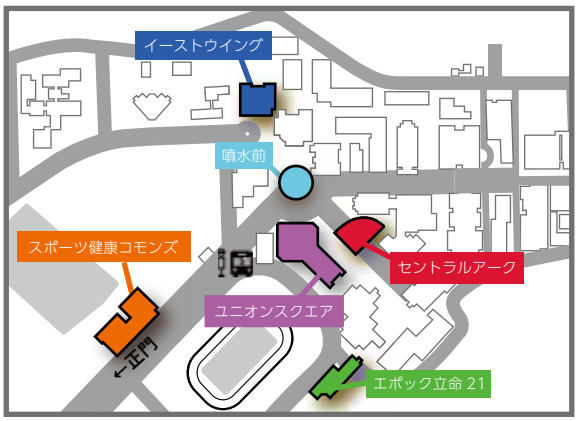
コラム：オール立命館校友大会 2018 in 仙台

2018 年 10 月 20 日、宮城県仙台市にて「オール立命館校友大会 2018 in 仙台」が行われた。ここで、当団体はブース出展を通して、活動の広報や、立命館関係者や企業の方とのつながりをつくる機会を得ることができた。当団体のみならず、Sustainable Week 2018 の参加団体であるロボット技術研究会と音響工学研究会も共に本イベントに出展し、様々な団体が協力して SDGs に取り組んでいることを示すことができた。話を聞いてくださった方々から、Sustainable Week の活動範囲をさらに広げていくためのアドバイスをいただいた。お話しした企業の方との連携にも期待ができそうだ。また、学校法人立命館の森島理事長、吉田前総長ともお話しすることができ、今後の取り組みに対する期待の言葉をいただくことができた。さらに、同会場で出展していた学生に活動に興味を持ってもらい、2019 年度の立命館大学 Sustainable Week 実行委員会メンバーに参加してもらうことができた。

3 章 Sustainable Week2018 実施企画

概要

Sustainable Week 2018 は 10 月 14 日 (日) ～ 10 月 16 日 (火) の 3 日間、立命館大学びわこ・くさつキャンパスで行った。学生が最も利用するとされるセントラルアークをメイン会場として企画を行った。企画では大学の学生団体をはじめとし、行政や企業など、様々なステークホルダを巻き込み、総勢 28 団体による企画を実施した。この 2 ページでは、全企画の企画場所と日時を掲載する。詳しい企画内容は次ページ以降に記載する。



↑企画場所全体図

All In One Laboratory

ものづくり企画を中心に、企業と協同しながら企画した。

アンプ製作会 (15 月 16 火)
アンプ製作、試聴
時間｜(月)18：00 ～ 21：00
(火)18：00 ～ 19：00
主催｜音響工学研究会
費用｜500 円

Robotics に触れよう！ (14 日 15 月)
大学生が作った様々なロボットに触れよう
時間｜(日)12：30 ～ 18：00
(月)18：00 ～ 19：00
主催｜ロボット技術研究会

持続可能な生産と消費サイクルの体験 (PLA キーホルダーづくりを通じて) (14 日 15 月 16 火)
バイオマスプラスチックを利用したキーホルダーの設計，作製，消費
時間｜13：00 ～ 18：00
主催｜AIOL

ユニオンホール

展示企画を中心に、様々なステークホルダの力を借りて企画した。

みらい KIDS にぎわい交流事業成果物展示会 (14 日 15 月 16 火)
みらい KIDS にぎわい交流事業成果物の展示
時間｜12：00 ～ 17：30
主催｜草津市中心市街地活性化協議会

SDGs ビブリオバトル！ (16 火)
SDGs に関する図書を紹介し合い、互いに SDGs に関する知識を深める
時間｜17：00 ～ 18：15
主催｜Sustainable Week 実行委員会

過去に学び、今を生きる (14 日 15 月 16 火)
太平洋戦争中、国内唯一の地上戦であった沖縄戦の写真展示
時間｜12：00 ～ 17：30
主催｜立命館大学
国際平和ミュージアム

あなたのレポート・論文に説得力を持たせる「OECD iLibrary」活用術 (14 日 15 月 16 火)
OECD が提供するデータベース「OECD iLibrary」の活用法をポスター・プレゼンで伝える
時間｜12：00 ～ 18：00
主催｜OECD 学生大使 _ 立命館

花王国際こども環境絵画コンテスト入賞作品展 in 立命館 (14 日 15 月 16 火)
花王国際こども環境絵画コンテストの入賞作品を展示
時間｜12：00 ～ 17：30
主催｜花王株式会社

エポックホール

広いホールを活かし、内外部の方をお呼びして講演企画や、ディスカッション企画を行った。

革新者創造部会 (15 月)
SDGs に関する講演・ディスカッション
懇親会（ユニオン 2F）
時間｜革新者創造部会 16：30~18：30
懇親会 18：40~20：00
費用｜無料 (懇親会参加は有料)
主催｜滋賀経済同友会

SDGs キャラバン！ (15 月)
次世代の SDGs リーダーを募る！
時間｜13：30 ～ 14：40
費用｜無料
主催｜Sustainable Week 実行委員会

スポーツ健康コモンズ

スポーツに関する企画を行うため、それに適した施設を使用した。

コアロビから始まる "Health Days" (15 月 16 火)
体幹トレーニングとエアロビクス、運動継続のための動画配信
時間｜(月)16：15 ～ 17：00
(火)8：00 ～ 8：45
場所｜2F 多目的スペース
主催｜FB+1

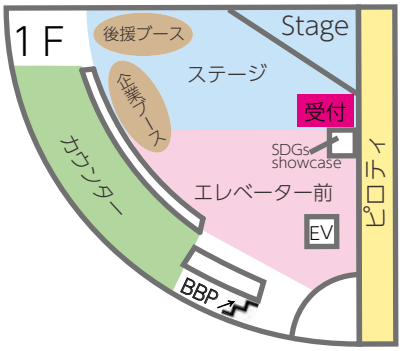
噴水前広場

学生が 1 番通りやすい広場で企画を行い、周囲の関心を引いた。

Sustainable Week Show 2018 (15 月 16 火)
自転車発電を用いたステージショー (雨天時はアーク 1F で開催)
時間｜12：20 ～ 12：50
主催｜LUSTER, Song-genics

メイン会場以外の施設では、その施設の特徴を活かした企画を行った。行き方をわかりやすくするために馬看板などを用いて参加者の誘導を行った。当日は初めて大学に来られた方も多数参加されていた。

メイン会場｜セントラルアーク



↑メイン会場

エレベーター前

メインステージの入り口前で企画を行った。

BKC を本当に地球に見立ててみた！
14(日) 15(月) 16(火)

学内にメッセージ付きステッカー設置
ブースでアンケートにお答え頂いた方に
ステッカープレゼント！！
ブース設置時間｜12：00～18：00
主催｜問題解決は SDGs を理解した後で
実行委員会

イノベイティブなアイデア創出型カードゲーム
14(日)

若者へ SDGs の必要性を訴えかける
SDGs カードゲームで遊ぼう
時間｜14：00～18：00
主催｜SDGs Global Youth Innovators

Sniff Sniff
14(日) 15(月) 16(火)

香りの世界地図を作ろう
香りつきシールの配布
時間｜(日)13：30～15：30
(月・火)12：00～15：00
主催｜Topas

食と科学のイリュージョン!?
14(日)

人工イクラ、色変化麺の作成
時間｜13：30～17：00
主催｜ライフサイエンス研究会

One Piece Project
14(日) 15(月) 16(火)

SDGs17 色がパフェになる!?
① SW 内の企画にてパフェの具材引換券をもらう
② 引換券をアーク 1 F のブースに持ってくる
③ パフェを購入する
時間｜15：00～18：00 (売り切れ次第終了)
主催｜Ein Stück Projekt
費用｜100 円

カウンター

セントラルアークの反対側で企画を行った。

探して答えよう Ritree ラリー
14(日) 15(月) 16(火)

BKC 内の樹木説明看板設置、
クイズラリー
景品交換｜(日)13：00～18：00
(月・火)12：20～12：50
16：20～17：50
主催｜Ritree(緑化プロジェクト)

びわこカフェ
14(日)

滋賀県産の食材を使ったおにぎりを
中高生と販売
時間｜12：00～16：00 (売り切れ次第終了)
主催｜TaBiwa+R
費用｜100 円～

ステージ

メインステージとして、開閉会式をはじめとする企画を行った。

渦輪を体験しよう！
14(日) 15(月) 16(火)

渦輪についての説明と効果の見学
時間｜(日・火)13：30～15：30
(月)9：00～11：00
主催｜建築環境・設備系研究室

新しい視野を ―学べ、起業家精神―
15(月) 16(火)

BKC インキュベータ入居企業様講演会
時間｜(月)16：20～18：00
(火)16：30～17：00
主催｜BKC インキュベータ
インターン生 28 期

STEP×Education
14(日)

小中学生英語プレゼンテーション
時間｜11：00～12：30
主催｜STEP

大学スポーツにおけるジェンダー平等
14(日) 15(月) 16(火)

動画の放映
時間｜適時
場所｜コモンズ前芝生
主催｜立命館大学 AVA

Beyond Borders Praza

セントラルアーク 2F の留学生交流ラウンジで留学生とともに企画した。

ぼどげであそぼ
16(火)

SDGs ボードゲームで遊ぶ
時間｜16：30～19：00
主催｜SOIL&SOUL

貿易ゲーム
14(日) 15(月) 16(火)

世界の貧富の格差をゲームを通じて
疑似体感する
時間｜(日)16：30～18：00
(月・火)14：40～16：10
主催｜アイセック滋賀大学委員会

Why Japanese People
15(月)

留学生の日本での生活を人生ゲーム
から学ぼう
時間｜16：30～19：30
主催｜Why Japanese People

ピロティ

セントラルアークの前で人通りも多く、多くの学生の注目を集めた。

SDGs Handwasher
14(日)

花王の製品を用い、
手洗いを通して水の大切さを学ぶ
時間｜11：00～14：00
主催｜Handwasher

誰一人取り残さない SDGs カレー
14(日) 15(月) 16(火)

いかなる宗教の人も一緒に食べることができる SDGs カレーの開発、提供
※この企画は 2018 年 3 月 11 日に実施された SDGs の達成に向けて活動する大学生を集めたコンテスト「大学 SDGs ACTION!AWARDS」(朝日新聞社主催)にて、グランプリに選ばれました。

時間｜12：00～16：00 (売り切れ次第終了)
費用｜500 円
主催｜立命館大学 Sustainable Week 実行委員会

開会式 & 開会式特別企画

2018 年 10 月 14 日

開会式

2018 年 10 月 14 日（日）、立命館大学びわこ･くさつキャンパスのセントラルアークにて開会式を行った。当日は滋賀県知事の三日月氏をはじめとする行政の方々、学校法人立命館副総長の仲谷氏（現総長）をはじめとする教職員の方々、学生や地域の方々など多くの来場者が出席した。

開会式特別企画

開会式後に、「SDGs in 滋賀～知事・副総長と考える私たちのミライ～」についてパネルディスカッションを実施した。パネラーとして、三日月知事、仲谷副総長 (現総長)、森氏 (NPO 法人グローバルな学びのコミュニティ留学フェローシップ)、切田（Sustainable Week 2018 実行委員長）の 4 名に登壇していただいただいた。議題として、SDGs への取り組みを県や大学で始めた理由やこれからの SDGs リーダー像について議論を行った。

企画の様子

Sustainable Week を多くの方に認知して頂くために、開会式と開会式特別企画の様子を生放送し、また各種 SNS を通じて発信する試みを行った。これによって、オンライン参加の導入の第 1 歩を踏み出した。この取り組みをはじめとし、SDGs オンラインサロンである「仮想地球市民会議」を自団体主催で定期開催することになった。

企画成果

●参加人数 107 人

三日月氏、仲谷氏両名ともから「2030 年までの SDGs 達成に向けて、これからも積極的に取り組んでいく」とのお言葉を頂戴した。今後も共に取り組んでいきたいと考えている。

食と科学のイリュージョン！？

ライフサイエンス研究会

企画内容

色変化焼きそばの実験では、麺の色を紫キャベツによりpHを変化させ、色を変化させた。身近にあるモノを使った実験で科学の面白さを伝えた。また、人工イクラを作成し、科学で食べ物に近いモノを作れる事を証明し、持続可能に必要不可欠な食が科学で補える可能性や面白みを伝えた。

企画目標

天然資源のイクラを新技術を用い人工的に作ることで、いつでもどこでも食べられる平等な権利を持つことを目指す。

●達成を目指すターゲット→ 1.4

「2030年までに、貧困層及び脆弱層をはじめ、すべての男性及び女性が、基礎的サービスへのアクセス、土地及びその他の形態の財産に対する所有権と管理権限、相続財産、天然資源、適切な新技術、マイクロファイナンスを含む金融サービスに加え、経済的資源についても平等な権利を持つことができるように確保する。」

企画成果

●参加人数　39人

参加者に対して、科学の楽しさを実感でき、科学に対して親しみが感じられるだけでなく、科学と食のつながりが見えてくる機会となったと考えられた。主催団体にとっては、普段団体が行っている活動とは異なり大人の参加者が多かったため、子どもに対して行っている普段の活動は大人や大学生に対しても通じるかどうかを試せる機会になった。今後の実験開発に活かして、さらなる発展の糸口になる可能性がある。

今後の目標

今までは子どもの科学離れを解消するために子どもに接してきたが、環境づくりとして家庭でも行えるような実験を行っていくことで、保護者が子どもに科学実験を促せるような環境をつくっていきたい。誰に対しても楽しんで、科学の知識を得られるものをつくっていきたい。

主催団体：ライフサイエンス研究会　　連絡先：lisci.ritsumei@gmail.com

ライフサイエンス研究会は近年、子供の科学離れが進行しているという問題を解決するために、子供を対象として科学の面白さを伝えていく活動をしている。空気砲の実験ショーやスライム作りなどを行い、科学に触れ、親しみを持ってもらえるよう、日々研究している。

～誰一人取り残さない～ SDGs カレー

立命館大学 Sustainable Week 実行委員会

企画内容

宗教的、信条的、体質的なものからくる「食の制限」は、心理的な負担も世界で発生している。本企画ではこれらを解決すべく、自身らで開発した「誰一人取り残さないカレー」を提供する。このカレーは一部のアレルギーを除く、全ての制限をなくしている。また、この企画ではマスク・D・フリッツ様に販売していただき実現に至った。

企画成果

●参加人数　167 人

カレー販売時に「食の制限」に関する問題について参加者に対し広く周知することができた。本イベントの基幹企画として実践することができ、当日には滋賀県知事の三日月氏や立命館副総長 (現総長) 仲谷氏に自身らの活動について知っていただくことができた。

企画目標

「宗教」「体質」の三つの食の制限を緩和し、多くの方がお互いの壁を越えられる未来を作る。また、制限を超えた方同士でのコミュニケーショ ンの促進を目指す。

●達成を目指すターゲット→ 2.1

「2030 年までに、飢餓を撲滅し、すべての人々、特に貧困層及び幼児を含む脆弱な立場にある人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られるようにする。」

今後の目標

今後は「誰一人取り残さない SDGs カレー」を生協で販売し、立命館大学に通っている留学生はもちろん、アレルギーなどを持っている大学生の「食」に対する課題を改善したいと考えている。SDGs の理念である「誰一人取り残さない」を実現する商品を作っていきたいと考えている。

主催団体：立命館大学 Sustainable Week 実行委員会

この企画は、2018 年 3 月に行われた「大学 SDGs ACTION! AWARDS」でグランプリを受賞した「宗教の違いを超えて誰もが食べることが出来る SDGs カレー」をリメイクしたものである。SDGs の理念である「誰一人取り残さない」を「食」から実現することを目指している。

コアロビから始まる”Health Days”

FB+1

企画内容

BKC の学生を対象に体幹トレーニングを中心としたトレーニングとエアロビクスを実施する。また、実施した運動の動画を YouTube にアップロードすることで参加者に自宅等で実践してもらえるようにし、運動の習慣化を図る。

企画目標

日ごろ運動不足を感じている学生に運動をする習慣を身につけてもらう。これを通じて、BKC の学生を健康にすることで、非感染症疾患による若年者の健康意識の向上に寄与することを目指す。

●達成を目指すターゲット→ 3.4

「2030 年までに、非感染性疾患による若年死亡率を、予防や治療を通じて 3 分の 1 減少させ、精神保健及び福祉を促進する。」

企画成果

●参加人数　20 人

参加一般学生への効果として、トレーニング方法に加えてその効果についての知識も得ることでトレーニングへのモチベーション向上につながった。また、特別な機材なしで自宅で行える簡単なトレーニングを実施したため、継続しやすさを感じてもらえた。その結果、参加者の健康維持にもつながると考えられる。さらに、主催団体側としても本企画を通して運動指導力や団体の認知度の向上につなげることができた。

今後の目標

次年度も Sustainable Week に参加する場合、参加者に見合った運動強度の設定、情宣方法を見直す必要がある。また、団体内でモチベーションの差が見られたため、三役を中心にサポートを行っていかなければならない。

主催団体：FB+1　　連絡先：sh0171hi@ed.ritsumei.ac.jp

本団体はスポーツ健康科学部の学生で構成されており、正課の授業で学んでいるスポーツ科学や健康科学に関する知識を生かして、スポーツ健康科学部の藤田聡教授のもと、科学的根拠に基づき幅広い世代を対象とした運動教室やイベントを企画している。

「ぼどげであそぼ」

SOIL & SOUL

企画内容

SDGs への理解を深めることを目的とし、当団体で自作したボードゲームを参加者に体験していただいた。この企画を通して、SDGs の 17 の目標の関係性について議論を深める。また、参加者の SDGs 認知度の向上を狙った。

企画目標

持続可能な開発のための教育を促進するためには進んで SDGs についての理解を深める必要がある。積極的な理解を促進することを目標とする。

●達成を目指すターゲット→ 4.7

「2030 年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。」

企画成果

●参加人数　32 人

参加者には企画を通じて楽しみながら、SDGs の 17 の目標を学んでもらうことができた。また、ボードゲームの特性上、対面して交渉するという要素があるため参加者間に新たなコミュニケーションを生み出すことができた。主催団体側としても、企画実施後に参加者から自作ボードゲームに対してフィードバックをもらったことで、今後の活動に向けた改善点を見いだせた。

今後の目標

自作ボードゲームの改良に取り組む。具体的には、ひらがな表記を取り入れるなど、子どもから大人まで幅広い世代の人々に遊んでもらいやすくなるようなボードゲームを目指していく。このような活動を通して、SDGs の認知度向上に貢献する。

主催団体：SOIL & SOUL　　連絡先：ec0636ve@ed.ritsumei.ac.jp

「人、組織、技術をつなぐ学内交流プラットフォーム」を学内での活動理念として掲げている。2018 年から「大学生と地域をつなぐ架け橋づくり」を学外での活動理念として掲げ、学内のみならず学外においても活動の幅を広げ、ボードゲームを手段として大学生と地域住民との交流を促進する活動を行っている。

「STEP × Education」

Science & Technology English Presentation

企画内容

立命館小学校・中学校の生徒が「持続可能な社会」について自分のアイデアを英語でプレゼンテーションし、BKC の学生に理系人材として必要な英語力の向上を促した。SDGs を通じて国際問題を学ぶことで彼らが将来の研究分野を考えるきっかけを設けた。

企画目標

持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を参加者に習得してもらい、将来国際社会で必要とされる技能を備えた若者の割合を大幅に増加させることを目指す。

●達成を目指すターゲット→ 4.4

「2030 年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。

企画成果

●参加人数　50 人

参加した学生にとって国際問題に関するプレゼンテーションが将来の研究分野を考えるきっかけになったと考えられる。また、小学生の英語プレゼンを見ることで大学生の英語予習へのモチベーションの向上にもつながった。さらに、今まで無かった大学と小学校の連携が行えた。

今後の目標

企画に参加する方々に対して、より自団体の活動を理解してもらうために企画全体のコンセプトを考え、今後の社会発展の担い手である小・中学生に英語力の向上を促し、また将来の研究分野を考えるための機会を設けていく。

主催団体：Science & Technology English Presentation　　連絡先：is0409es@ed.ritsumei.ac.jp

当団体は、高校時代に学んだ英語を用いて、科学技術をテーマとしたプレゼンテーション能力を向上させること、また、立命館大学びわこ・くさつキャンパスにおける国際科学技術交流基盤を構築することの主に 2 つを柱にして活動を行っている。

「Robotics に触れよう！」

立命館大学ロボット技術研究会

企画内容

当研究会が所持しているロボットを展示・操縦し、ロボットの機能や技術を説明をした。また、ロボットの操作技術や開発にかかわる話などをポスターを用いてものづくりの楽しさを伝えた。また 10 月 14 日には、当企画の参加者に、草津市でとれた規格外野菜を用いて minibar 様が作られたジュースの提供を行うというコラボ企画を行った。

企画目標

自作したロボットを紹介・体験してもらい、技術的・職業スキルを知ってもらう。その体験をきっかけに必要な技能を備えた人材を増やすことを目指す。

●達成を目指すターゲット→ 4.4

「2030 年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。」

企画成果

●参加人数　92 人

参加者にはロボットに実際に触れて、製作者とも話す貴重な機会が与えられた。また、参加した学生に対しては、得られた経験をもとに大学での自身の学びのモチベーションへつなげていけると考えられる。主催団体にとっては学内でロボットを展示し、ものづくりの楽しさを広める場を得ることが出来た。団体の認知度の向上にもつながった。また、minibar 様とのコラボ企画は 1 日のみの開催だったものの、想定を上回る人数に参加していただいた。

今後の目標

毎年開催される NHK 学生ロボコンへの出場をし、好成績を収めることを目標にしている。また、自団体の活動を通して地域貢献を行い、ものづくりの楽しさを広める活動を行う。

主催団体：立命館大学ロボット技術研究会　　連絡先：rr0089ex@ed.ritsumei.ac.jp

用途に応じた様々なロボットを製作し、大会やコンテストなどに参加し、好成績を収めることを主な目標として活動している。また、ものづくりの経験や知識を活かして、地域の人をはじめとする幅広い世代にものづくりの楽しさを広める活動を行う。

THE SDGs Action cardgame「X（クロス）」

SDGs Global Youth Innovators

企画内容

SDGs Global Youth Innovators が開発した SDGs カードゲームを体験してもらった。その際にカードゲームの開発目的や今後の展開などを理解するとともに、イノベーションの手法を学ぶ。本企画を通して SDGs を知る機会を提供した。

企画目標

私たちが作成した SDGs カードゲームを使用し、全ての子供に必要性を訴える。そして、参加者が SDGs アク ションを起こせるように支援する。そして、質の高い教育をできるようにする。

●達成を目指すターゲット→ 4.1

「2030 年までに、すべての子どもが男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする。」

企画成果

●参加人数　23 人

参加者は、SDGs の理解とイノベイティブなアイデアの創出方法を学ぶことができた。特に、カードゲームを使うことで、アイデア創出のノウハウを「型」として身につけることができたため、今後身の回りにある社会課題解決の方法を考えるときにも応用が可能であると考えられる。主催団体としては、企画を通して新しい人とのつながりを作ることができた。また、より多くの若者に SDGs を理解してもらえた。

今後の目標

さまざまな企業と連携しながら活動を行っていく。また、資金をいただいた事業の構築を積極的に推し進めていく。さらに、今回のイベントで得たネットワークを生かして若者へ SDGs の考え方を広め、今後の活動につなげていく。

主催団体：SDGs Global Youth Innovators　　連絡先：sdgs.gy.innovators@gmail.com

理念は「私たちは私たちの未来を救うために」である。現在行っている活動の目的は以下の２つである。１．これからの世界を担っていく学生が主体となって SDGs の考え方を世界中の人に広める。２．私たちのコミュニティが世界を救う人材のオアシスとなり、その成長の手助けをする。これらを達成するために日々活動している。

大学スポーツにおけるジェンダー平等

立命館大学 AVA (Athlete Volunteer Association)

企画内容

BKC セントラルアーク建物内スクリーンにてビデオを放映した。ビデオの内容は、AVA Women、AVA 学内事業部、男子サッカー部、剣道部、女子サッカー部、準硬式野球部、相撲部、AVA メンバーが出演し、大学スポーツからジェンダー平等に向けて取り組むというメッセージを訴えるというものである。

企画目標

効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保した組織体制作りを通じて、大学スポーツから日本全体の男女格差是正に影響を与えていくことを目指す。

●達成を目指すターゲット→ 5.5

「政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する。」

企画成果

大学スポーツがジェンダー平等についてアプローチできる環境であることを知っていただけた。また、大学のみならず社会において人気や注目度の低い「大学スポーツ」の社会的価値について認識していただけるきっかけを作ることができた。本企画を通して、SDGs を実現するための一つの環境、プラットフォームとして、「スポーツ」、「大学スポーツ」が考えられるということを提案できたと考えられる。

今後の目標

大学スポーツを通じて、ジェンダー平等を始め、SDGs の実現に向けたアクションを起こしていく。より多くの学生にインパクトを与え、SDGs をはじめとする社会問題を解決するための「プラットフォーム (場)」として、大学スポーツ、スポーツに関心を寄せていただけるよう努める。

主催団体：立命館大学 AVA (Athlete Volunteer Association) 連絡先：ava.ritsumei.2017@gmail.com

「共者 共学 共栄」

1. 様々な価値観・考えの受容による「人間力の向上」、2. 刺激し高め合い、「切磋琢磨」できる関係に、3. 地域社会と「相思相愛」の関係に、4. 大学スポーツの更なる「振興・発展」への寄与

SDGs Handwasher

Handwasher

企画内容

手洗いという普段の生活において馴染みの深い行動を通して、水不足に陥っている地域の現状を体感する。普通に手洗いをするのではなく、水不足の度合いに合わせて手洗いの秒数が設定され、その時間内に手洗いを実施する。

企画目標

手洗いで世界の水不足を体感し、水不足を身近に感じてもらい、水不足に悩む人々の現状を知ってもらう。理解が進むことで、水不足に悩む人々の数を大幅に減少させる。

●達成を目指すターゲット→ 6.4

「2030 年までに、全セクターにおいて水利用の効率を大幅に改善し、淡水の持続可能な採取及び供給を確保し水不足に対処するとともに、水不足に悩む人々の数を大幅に減少させる。」

企画成果

●参加人数　26 人

参加者には、企画を通じて水不足についての認識を深めてもらうことができた。また、ひとりひとりが意識して水不足問題解決へ向けた取り組みをしてもらうよう促すことにつながった。本企画は花王株式会社様と協力して行った企画であったので産業との連携を生み出すことができた。協力団体にとっては、企画を通して花王株式会社製の商品を使用して手洗いを実施したため商品の宣伝の機会にもなった。

今後の目標

今回の企画を通して得られた反省点をもとに、入念な準備やシミュレーションを行ってから当日の運営をするように心掛ける。また、参加者に水不足の現状を訴えかけるために、主催・協力団体のメンバーが水不足に関する知識をさらに深めていく。

主催団体：Handwasher　　連絡先：rr0089ex@ed.ritsumei.ac.jp

2018 年 6 月に開催された Towards Sustainable Week 2018 ～立命館から世界へ～にて、今回の Sustainable Week 2018 で実施する企画として本企画を発案。その際、花王賞を受賞した。花王株式会社様の普段販売されている製品を用いて社会問題を解決するために考案した。

Sustainable Week Show 2018

カラーガードサークル LUSTER、アカペラサークル Song-genics

企画内容

学生に自転車による人力発電に協力してもらい、その電気をマイクに繋げ、視覚的に発電エネルギーを実感できる機会を設けることで、学生がエネルギーの大切さを実感することを目的とする。

企画目標

音楽団体によるパフォーマンスを通じて、再生可能エネルギーの日常活用の可能性を訴える。

●達成を目指すターゲット→ 7.a

「2030 年までに、再生可能エネルギー、エネルギー効率及び先進的かつ環境負荷の低い化石燃料技術などのクリーンエネルギーの研究及び技術へのアクセスを促進するための国際協力を強化し、エネルギー関連インフラとクリーンエネルギー技術への投資を促進する。」

企画成果

●参加人数　300 人

参加者に対して、視覚的に発電エネルギーを実感できる機会を与えることができた。また、2 団体でコラボして企画を行うことで、課外活動の種類の幅広さと楽しさを多くの学生に知ってもらえる機会になった。異なったジャンルの団体との交流により、新たな親睦が深まった。

今後の目標

Song-genics と LUSTER のメンバーが本企画内容を周りの人に広めることで、より多くの人に SDGs 周知していきたい。また、もう少し演出に工夫を凝らし Sustainable Week らしさを出すことを考えている。ただイベントを盛り上げるだけでなく、見ている人々に社会問題を通して更に多くの刺激を与えていくことを目標とする。

主催団体：カラーガードサークル LUSTER

連絡先：ec0593he@ed.ritsumei.ac.jp

学園祭セントラルステージ、新歓祭ステージを目標に日々カラーガードの練習に取り組んでいる。

主催団体：Song-genics

連絡先：is0360xx@ed.ritsumei.ac.jp

不定期にバンド主催ライブやサークル員企画のライブの開催。学内外でのイベントや渉外活動にも参加している。

新しい視野を - 学べ、起業家精神 -

BKC インキュベータ 28 期インターン生

企画内容

BKC インキュベータ施設内に入居されている企業による講演会を実施した。ベンチャー企業に興味のある学生、および一般学生を対象として企画を行った。そのほかにも、企業と学生の交流の場の機会を設けた。

企画目標

ベンチャー企業による講演会を開き、大学生を対象とした起業家精神を持つ機会を設けた。それにより、創造性およびイノベーションを得ることの他、SDGs について考える手助けをすることを目標とする。

●達成を目指すターゲット→ 8.3

「生産活動や適切な雇用創出、起業、創造性及びイノベーションを支援する開発重視型の政策を促進するとともに、金融サービスへのアクセス改善などを通じて中小零細企業の設立や成長を奨励する。」

企画成果

●参加人数　23 人

参加者に中小企業との交流の機会や就職、進学の道の他に起業するという視野を与えることができた。主催団体側としても企業との連携を通して SDGs 企画を計画することでグループワークや企業との連携プロジェクトの実施経験を得られた。

今後の目標

28 期インターン生としての活動は終了しているため次期インターン生への SDGs について各自で調べることの他、SDGs に関連するイベントに積極的に参加をするなどの行動を実施することを目標とする。

主催団体：BKC インキュベータ 28 期インターン生　　連絡先：is0368sr@ed.ritsumei.ac.jp

立命館大学 BKC インキュベータに入居していらっしゃるベンチャー企業への業務支援、その入居企業様が行っているプロジェクトを共同で推進していくことに加え、立命館大学学生ベンチャーコンテストの運営を支援することを主に活動している。

あなたのレポート・論文に説得力を持たせる「OECD iLibrary」活用術

OECD 学生大使

企画内容

Sustainable Week の来場者を含め、参加団体の方、一般学生、教職員に対して、個別に「OECD iLibrary」の活用方法をレクチャーし、今後の学習・研究に役立つ情報を提供した。

企画目標

国際機関である OECD の様々な報告書、統計データを参照できる「OECD iLibrary」の活用法をレクチャーし、持続可能な経済成長をはじめとする SDGs について考える手助けをすることを目標としている。

●達成を目指すターゲット→ 8.1

「各国の状況に応じて、一人当たり経済成長率を持続させる。特に後発開発途上国は少なくとも年率 7% の成長率を保つ。」

企画成果

●参加人数　54 人

本企画を通して参加者がデータベース「OECD iLibrary」の活用法を得たことによって今後の学習に役立てていただけるのではないかと期待できる。また、会場の受付を担当した他の団体との関わりを持ったことにより、今後の活動に幅が出た。企画を行ったメンバーは、ポスターを使ったレクチャーをするなかで経済をデータを使って紐解くという実践的な学びがあったようである。

今後の目標

今回の企画により、「OECD iLibrary」の活用法を周知させることが出来たが、まだ認知度は低いので、ゼミや講義に地道に訪問し、プレゼンによって OECD や OECD iLibrary を広め、研究に活かしてもらう。

主催団体：OECD 学生大使　　連絡先：gr0349kk@ed.ritsumei.ac.jp

国際機関である OECD（経済開発協力機構）の東京センターが募集する「OECD student ambssador programme 2018-2019」のために結成された団体である。OECD の学生大使としての数ヶ月にわたる取り組みのなかで、「OECD iLibrary」の活用法を広め、立命館大学生の学習の水準向上に貢献ができるように、活動している。

貿易ゲーム

アイセック滋賀大学委員会

企画内容

貿易のシミュレーションゲームを行った。ゲームでは、同じルールの下でもあらかじめ不平等な初期条件を設定しておくことで豊かなグループはより豊かに、貧しいグループはより貧しくなる様子が再現できるようになっている。経済格差が拡大していく仕組みを、現実の自由貿易システムと対比しつつ体験的に理解してもらった。

企画成果

●参加人数　29 人

参加者にとっては普段考えることのなかった世界やその課題に対して気づきを得られる機会となった。立命館大学の様々な学生に対してアイセックの企画する海外インターンシッププログラムの認知の向上を図ることができた。また、自大学を超えて様々な学生や団体と知り合うことができた。

企画目標

本企画を通じ、経済格差が拡大していく仕組みを理解し、発展途上国等の国々の貿易のための援助について思考する。

●達成を目指すターゲット→ 8.a

「後発開発途上国への貿易関連技術支援のための拡大統合フレームワーク（EIF）などを通じた支援を含む、開発途上国、特に後発開発途上国に対する貿易のための援助を拡大する。」

今後の目標

立命館大学の学生に社会課題が実際に発生している場所にて SDGs 達成を目指す海外インターンシッププログラムを提供していき、志とリーダーシップを手にする経験を提供していきたい。もし、来年度もこのイベントに参加することになれば、上記の海外インターンシップの説明会を開催することが出来ればと考えている。

主催団体：アイセック滋賀大学委員会　　連絡先：sota.sakai@aiesec.jp

平和で人々の可能性が最大限に発揮された社会 (Peace & Fulfillment of Humankind's Potential) の実現のため、社会課題を解決できる『共創的リーダー』の輩出を目指し、海外インターンシップ事業を通じてアイセックだからこそ提供できる " 経験 " を若者に提供している。

アンプ製作会

音響工学研究会

企画内容

アンプを実際に製作することを通じて学生にオーディオの仕組みを原理から理解してもらい、興味を持ってもらう機会とした。さらに、製作したアンプの試聴を行った。

企画目標

オーディオ機器の自作を通して、商品への付加価値創造などを考える機会を創出する。そこから、技術開発やイノベーションを支援することを目標としている。

●達成を目指すターゲット→ 9.b

「産業の多様化や商品への付加価値創造などに資する政策環境の確保などを通じて、開発途上国の国内における技術開発、研究及びイノベーションを支援する。」

企画成果

●参加人数　2 人

参加者に実際にアンプを製作してもらうことにより、電子工作の知識に触れてもらうことができた。また、手軽に高音質な音源再生環境を整えられることを知ってもらえた。主催団体としては、据え置き型のアンプの魅力を伝えることができた。部員全体の知識量向上にもつながり、音響工学について興味を持っていただけるような活動が行えたかどうかも確認できた。

今後の目標

企画参加者が少なかったので、参加者を増やす努力をする。今後も自分たちの活動を知ってもらう機会を設ける。それに伴い部員自身のオーディオに関する知識をさらに深める。また、部員が少ないので部員数を増やす。

主催団体：音響工学研究会　　連絡先：onken.rits@gmail.com

オーディオ文化の発展に寄与するべく、機器の自作、改造、評論、技術の研究、知識のフィードバックなど、様々な研究活動に日夜励んでいる。理科サークルフェスタへの出展や、雑誌への製作記事の掲載、インタビュー記事の掲載など、メディアでの情報発信も行っている。

Why Japanese People

Why Japanese People

企画内容

留学生に対し、日本での生活についての実態をアンケートにより調査した。その結果をもとに子供にもわかりやすいルールのボードゲームを作成した。このゲームを通じ、異なる文化の価値観についてディスカッション形式で表現してもらった。

企画目標

人種、民族、出自、宗教にかかわりなく、すべての人が安心して暮らせるような社会を作るために、異なったバックグラウンドを持つ人々への理解を促していくことを目標としている。

●達成を目指すターゲット→ 10.2

「2030 年までに、年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、すべての人々の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進する。」

企画成果

●参加人数　31 人

参加者には留学生目線に立って異文化について考え、普段聞けない留学生の本音を知る機会を与えることができた。また、参加者と主催団体側の双方にとって共生社会の実現に対する意識が高まるきっかけとなった。ボードゲーム製作に関わった留学生と日本人学生間につながりが生まれただけでなく、留学生にとっても自国以外の留学生の実態を知ることができたことから留学生間の交流も深まった。

今後の目標

ゲームは何度でも再利用が可能なので、様々なところでワークショップを開催することによりさらなる理解を呼びかける。

主催団体：Why Japanese People　　連絡先：nk.343586p@gmail.com

2018 年 6 月に開催された Towards Sustainable Week 2018 ～立命館から世界へ～にて、今回の Sustainable Week 2018 で実施する企画として本企画を発案。Sustainable Week 本番で上述の通りボードゲームワークショップを開催した。また、本企画は花王株式会社様の他に、草津市国際交流協会様にも協賛していただいた。

SDGs ビブリオバトル

立命館大学 Sustainable Week 実行委員会

企画内容

バトラーと呼ばれる発表者は SDGs に関連した図書の紹介を５分間プレゼン形式で行った。５分間の発表を聞いたオーディエンスが最も読みたいと思った本に投票する。投票数が一番多い登壇者が優勝となる。

企画目標

SDGs に関する本を互いに紹介し、SDGs に関する理解を深める。また、さまざまな年代の方に参加してもらうことで、さまざまな年代による包摂的かつ持続可能な都市を考えてもらう。

●達成を目指すターゲット→ 11.3

「2030 年までに、包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。」

企画成果

●参加人数　15 人

他企画は SDGs についての理解を体験型という側面から行うものが多いが、本企画では書物から知識を得るという形で理解を深められた。多くの本をひとりひとりの視点で紹介してもらうことで、既読の本でも新たな視点で内容を知ることができたと考えられる。また、SDGs への理解を深めてもらうことで、SDGs と Sustainable Week 実行委員会という団体そのものにも関心を持ってもらう可能性が見込まれる。

今後の目標

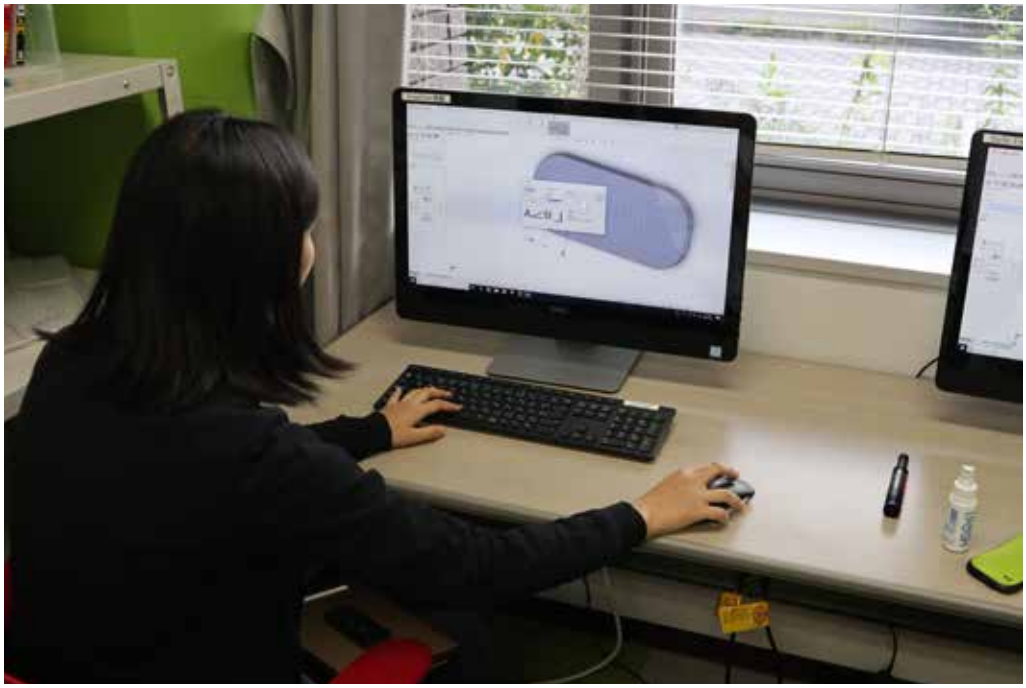
ビブリオバトルのことをよく把握できていない形で企画を実施してしまったため、今後はしっかりと把握した上での実施を心掛ける。また、SNS を活用して集客を試みる。

主催団体：立命館大学 Sustainable Week 実行委員会

ビブリオバトルという「本を通じて人を知る」という理念を用いて、草津市に在住している小学生や、草津市に勤務されている方々をお呼びして草津の町について改めて知る機会を創出したいと考え、発案した企画である。企画立案者は「本を通じて町を知る」ことを理念として、本の楽しさを知る機会を創出したいと考えている。

持続可能な消費と生産サイクルの体験 [PLA キーホルダー作りを通じて]

All In One Lab



企画内容

3DCAD を用いて設計を行い、このデータを 3D プリンターで出力することで PLA を使ったキーホルダーを作製した。理解を深めたあかしとして出来上がった製品を配り参加者に使用してもらう。All In One Lab 内の施設を紹介し、できることを説明することで、学生の「モノづくり」への関心を深めた。

企画目標

バイオマスプラスチックである PLA 樹脂を使ったモノづくり体験 を通じて、訪れた人々に持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関心を持ってもらう。

●達成を目指すターゲット→ 12.8

「2030 年までに、人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。」

企画成果

●参加人数　90 人

参加者に対して、普段身の回りにない 3D プリンターをはじめとした工作機械に触れる機会を与えることができた。All In One Lab の一般学生への認知度の向上を図るとともに、昨今のモノづくりにおいてバイオマスプラスチックなどのような環境に配慮した工夫を広く知ってもらうことができた。

今後の目標

バイオマスプラスチックと 3D プリンターを目玉として認知度の向上を図るとともに，本企画終了後も引き続き学生のモノづくりへの意欲創出やモノづくりに取り組みやすい環境づくりを支援していく。

主催団体：All In One Lab　　連絡先：rr0091ks@ed.ritsumei.ac.jp

All In One Lab は、立命館大学イーストウイング 1 F にある『モノづくり人材育成』に関わる取り組み拠点である。ここでは、アドバイザー支援のもと、設計、試作、装置利用やソフトウェア利用などに必要な設備や部材が配備され、学生および院生は基本的に無償で利用することができ、実践を通して理解を深められる場である。

Sniff Sniff

Topas

企画内容

思い出の文章と香りをまとめたポスターを展示する。ポスターの横に、参加者自身の体験を自由記述できるように紙とペンを配置し、参加型のブースにすることで「香り」によるSDGs の意識をもってもらうことを目的とする。

企画目標

香りに関する体験を通じて、「モノ」の意味を考える機会を創出することで、廃棄物の発生防止・削減・再生利用を考える。また、自然と調和し たライフスタイルを意識してもらう。

●達成を目指すターゲット→ 12.5

「2030 年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。」

企画成果

●参加人数　180 人

香りを通じてひとりひとりの思い出やそれに関連する「モノ」の大切さを考えることにより、新たな視点から課題を考える機会をつくることができた。また、本企画の実施に伴い、課外活動の種類の幅広さと楽しさを多くの参加者に知ってもらえた。異なったジャンルの団体との交流により、様々なフィールドで活躍する学生との親睦が深まり団体知名度の向上にもつながった。

今後の目標

団体の方針を安定させ、はっきりと分かりやすいものにしていく。また、これまでよりも積極的に自主活動に取り組んでいく。

主催団体：Topas　　連絡先：ra0068vv@ed.ritsumei.ac.jp

香りと記憶をテーマに様々な活動を行う団体。2018 年度は行動心理と香りの関連性、快不快と香りの関連性、スヌーズレンルームによる能力の変化をキーワードに活動している。今回は、2018 年 6 月に開催された Towards Sustainable Week 2018 ～立命館から世界へ～にて発案された企画内容を改良し、実施した。

BKC を本当に地球に例えてみた！

問題解決は SDGs を理解した後で実行委員会

企画内容

BKC を本当に 1 つの地球に見立てた数値を身近な事柄に置き換えた情報 (例えば、水不足の人は情報理工学部の学生に相当する等) を、BKC の人目に付きやすい場所 (トイレなど) にステッカーにして設置する。また、企画背景・目的ポスター、「BKC を本当に地球と見立ててみた！」ポスターの設置と環境問題に対する意識調査のためのアンケートを行う。さらに、ゴミの量を可視化できるようにしたゴミ箱を設置する。

企画目標

学生に対して SDGs を啓発し、その先にある問題についてより 身近に感じてもらうことで、問題解決に取り組む人材を育成する。

●達成を目指すターゲット→ 13.3

「気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。」

企画成果

●参加人数　180 人

SDGs のみならずその先にある世界が抱える深刻な問題をよりわかりやすい形で不特定多数の学生に広めることができた。参加学生に対し、日常生活の小さなことから変えていこうという意識の変化を与えられた。SDGs を知らない学生に興味を持ってもらい Sustainable Week の活動をはじめ、問題解決に挑戦する団体の活動のより一層の活性化・発展につながると考えられる。

今後の目標

今後もこの企画を継続することができたら、SDGs や世界の問題についての意識調査を行うなど、この企画の成果をもっと分かるようにしていきたい。

主催団体：問題解決は SDGs を理解した後で実行委員会　　連絡先：sj0059sh@ed.ritsumei.ac.jp

2018 年 6 月に開催された Towards Sustainable Week 2018 ～立命館から世界へ～にて、今回の Sustainable Week 2018 で実施する企画として本企画を発案。活動理念は「BKC を本当に地球に見立てる」ことで、多くの大学生に世界の深刻な問題を身近に感じてもらい、SDGs を理解したあとの問題解決のための活動を活発化させることです。

渦輪を体験しよう！

建築環境・設備系研究室

企画内容

空調に用いられる、渦輪について説明し、実際に発射される渦輪を体験してもらう。また、来場者と一緒に段ボールで簡易的な空気砲を作り、紙を倒すゲームをしてもらう。

企画目標

渦輪を体験してもらう事で、気候変動の緩和・適用をする為の技術を人に知ってもらう。そこから、気候変動への対策を個人で意識づけるよう、啓発する。

●達成を目指すターゲット→ 13.3

「気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。」

企画成果

●参加人数　60 人

参加者に対し、具体的な気候変動の対策を知る機会を提供した。主催団体側としては、具体的な気候変動の対策である技術について発信できた。また、来場者に渦輪について説明する事で主催メンバーも省エネ技術を学ぶ事ができた。来場者の空調に関する意識を知るきっかけにもなった。学外に対しても主催団体が行っている研究について発信する事ができ、学校としての成果につながったと考えられる。

今後の目標

渦輪だけでなく、現在研究を行っている他の具体的な気候変動の対策について広めていきたい。子ども達に反響が大きかったため、次世代の担い手となる子どもに触れてもらう機会を提供したい。

主催団体：建築環境・設備系研究室　　連絡先：ru0052hk@ed.ritsumei.ac.jp

環境と共生可能な建築や都市・街区のデザイン、人の快適性・生理現象の解明、脱炭素社会構築に向けた研究を行っている。また、省エネへの取り組みも行っており、今回の企画内容は快適で省エネな次世代の空調システムの開発研究に関わっている。

びわこカフェ

TaBiwa＋R

企画内容

滋賀県の地域でマイプロジェクトに取り組んでいる中高生と協働し、琵琶湖で獲れた湖魚と農薬・化学肥料を使わずに栽培された近江米を使ったおにぎりの販売と中高生のマイプロジェクトのポスター展示を行った。

企画目標

「琵琶湖につながる」をテーマに滋賀県の食材を組み合わせて販売し PR することで、湖魚の新たな販路を創出する。

●達成を目指すターゲット→ 14.b

「小規模・沿岸零細漁業者に対し、海洋資源及び市場へのアクセスを提供する。」

企画成果

●参加人数　100 人

当日用意した食材（おにぎり，味噌など）を全て販売することができた。ただ売るだけではなく、購入前に食材の説明を行ったため、購入者に滋賀の食材について伝えることができた。中高生にとってはマイプロジェクトを実行する良い機会となり、多くの人と交流し意見交換をすることで知見を広げることができた。また中高生と協働することで、今後もお互いに協力できる関係を築くことができた。

今後の目標

①滋賀県内の観光という大きなくくりではなく、地域に密着してよいモノを発信する　②中高生と一緒に活動をすることによって若者がより地元地域に興味をもつことの促進　③県外出身の多い立命館大学の学生が地元の良さを発信する機会を創る

主催団体：TaBiwa+R　　連絡先：r-tabiwa@edge-sprout.com

滋賀県を中心にフィールドワークをし、課題を抽出しながら活動している。若者の自己表現のフィールドが地方に少ないという課題を解決するため、SDGs への取り組みを通じた文化などを伝承する仕組みをもととした、地域を支えるリーダーモデルを SDGs を介して設計し、若者の意識変化を促していく。

探して答えよう Ritree ラリー

Ritree（緑化プロジェクト）

企画内容

BKC 内の 5 カ所の樹木に種名や生育状況を記載した看板を設置し、BKC の樹木の危機的状況を周知した。また、各樹木看板にクイズを設け、ラリー形式で参加者に回ってもらい、全問正解者には景品をプレゼントした。

企画目標

BKC の木々の発育不良について知り、劣化した樹木環境を回復させる必要性を意識する。企画を通して大学に働きかけ、景観樹の持続可能な経営の実施を促進する。

●達成を目指すターゲット→ 15.2

「2020 年までに、あらゆる種類の森林の持続可能な経営の実施を促進し、森林減少を阻止し、劣化した森林を回復し、世界全体で新規植林及び再植林を大幅に増加させる。」

企画成果

●参加人数　57 人

参加者に対して、BKC の景観樹・緑化活動に対する興味関心の増加に加え、身近な環境問題に目を向ける意欲の創出を働きかけることができたと考える。主催団体側としては団体外への活動情報の発信機会を得ることができた。さらに、本企画に協力してくださった BKC 地域連携課の方に対しても樹木の種名や生育状況を把握してもらうことができた。企画実施後も緑化活動を続けることで継続した効果が期待できると考える。

今後の目標

今回の企画対象となった樹木への土壌分析及び施肥、同様に草津川跡地公園や京都宇治茶畑での活動を進める。活動に当たって企画協力者や参加者の方々から得られた意見を参考にし、大学や地域と連携した緑化プロジェクトを推進する。

主催団体：Ritree(緑化プロジェクト)　　連絡先：ritree.2016@gmail.com

立命館大学生命科学部自主ゼミ団体として、SOFIX という技術を用いて緑を豊かにしていくことを目標として活動している。活動理念は「立命館の木を元気にし、緑豊かなキャンパスを作る」であるが、最近では学内にとどまらず学外の緑にも目を向けながら活動の幅を広げている。

過去に学び、今を生きる

立命館大学国際平和ミュージアム

企画内容

平和ミュージアムが貸出を行っている展示パネル「沖縄戦と基地」を展示した。来場者 (特に学生) に対して、本当の平和とは何かについて考えてもらった。入場前と資料をすべて見た後に「あなたの考える平和とは」について紙に記入してもらい、観覧前後での考えの変化を見た。

企画目標

平和創造の主体者を育むため設立された国際平和ミュージアムは、平和とは何かを伝えるための責任を持った透明性の高い公共機関として、沖縄の歴史から平和とは何かを考えさせる。

●達成を目指すターゲット→ 16.6

「あらゆるレベルにおいて、有効で説明責任のある透明性の高い公共機関を発展させる。」

企画成果

●参加人数　99 人

少しでも多くの BKC の学生に対して国際平和ミュージアムを認知してもらえたのではないかと考えている。本企画を通して、参加者に国際平和ミュージアムへ行くきっかけや国際問題と平和について考える機会を与えることができた。また、沖縄の基地問題についての関心も高まったと推測できる。

今後の目標

BKC の学生が今後国際平和ミュージアムを訪ねる学生を増やしていく。展示物や教材キットを貸し出しが増えたり、秋にある世界報道写真展に参加してもらうようにしたい。また、この施設を原動力として教育の質の向上へ結びつけていきたい。

主催団体：立命館大学国際平和ミュージアム　　連絡先：075-465-8151

立命館大学国際平和ミュージアムは、平和創造の面において大学が果たすべき社会的責任を自覚し、平和創造の主体者をはぐくむために設立された。事業として特別展、シンポジウム・講演会などを開催。常設展詳細解説、紀要刊行、資料目録第一集、第二集を冊子と CD-ROM で作成、HP で検索可能なデータベースを公開している。

One Piece Project

Ein Stück Projekt

企画内容

各企画に参加することで、参加賞として引換券をもらうことができ、本企画にてそれぞれの企画の SDGs の目標の色に応じたパフェの具材と交換し、盛りつけてもらった。最終的にはこのパフェを通じて全ての企画を満遍なく回ってもらうことで、SDGs を知ってもらった。

企画目標

パフェの作成を通じて様々な団体の経験や資源戦略から作られた企画一つ一つをつなぐ使命を帯びている。そこから団体同士の効果的なパートナーシップを推進する。

●達成を目指すターゲット→ 17.17

「さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。」

企画成果

●参加人数　260 人

動線形成という点において、パフェという新たな側面から、当イベントを盛り上げることができた。主催団体のメンバーは 1 回生を中心に構成されており、それぞれが学生生活の中で早い時期からこのようなイベントに参加したことで、今後の学生生活に主体的にリーダーシップを発揮して活動できるきっかけとなった。

今後の目標

今後もし本企画を行う機会があれば、滋賀で生産された地元食材を使用することで地域との連携を図り、さらなる参加者の増加と SDGs の周知を推し進めて行きたい。また、地産地消という観点から持続可能な社会を考えるきっかけを作りより内容の深い、価値のある企画を生み出していきたい。

主催団体：Ein Stück Projekt　　連絡先：ec0516sh@ed.ritsumei.ac.jp

2018 年 6 月に開催された Towards Sustainable Week 2018 ～立命館から世界へ～にて、今回の Sustainable Week 2018 で実施する企画として本企画を発案。当団体は参加者だけでなく、運営側も笑顔で面白くをモットーに楽しく企画準備、運営を行った。

SDGs キャラバン

CUBE プロジェクト

企画内容

講演者として上田氏・渡邊氏・戸簾氏をお招きしてSustainable Week について講演を行った。その後、登壇者に対しての質問時間を設けて、参加者と登壇者の簡単なディスカッションをしてもらった。

企画目標

次世代の SDGs リーダー育成の側面から Sustainable Week を解説する。そこで、滋賀県内で発展的な取り組みをする学生と参加者を繋げることで、効果的な官学民のパートナーシップを奨励・推進する。

●達成を目指すターゲット→ 17.17

「さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。」

企画成果

●参加人数　33 人

立命館が SDGs への取り組みを始めたきっかけと、立命館大学 Sustainable Week 実行委員会の学生が SDGs を基にどのような活動をしているのかを周知することができた。また、今後活動して行くための経験と実績になった上に、本団体への協力者を募ることができた。

今後の目標

月に 1 回ほど Sustainable Week 実行委員会のメンバーが講演を行い、Sustainable Week への協力者を募っていきたいと思う。また、実行委員会メンバーのプレゼンテーション能力を向上させる企画にもしていきたいと考えている。

主催団体：CUBE プロジェクト　　連絡先：r-cube@edge-sprout.com

本団体は「Challenge（挑戦する）」「Connect（繋がる）」「Contribute（社会に貢献する）」を理念とした団体である。日本全国の若者が SDGs（持続可能な開発目標）で繋がり、主体的に学びを深めることを応援している。本団体は立命館大学 Sustainable Week 実行委員会から派生した団体であり、日本財団 Gakuvo Style Fund の支援を受けている。

協賛企画一覧

協賛企画について

Sustainable Week では、2017 年度に引き続き、様々な、行政機関や企業、学校法人立命館内の機関に協賛・後援を行っていただいた。また、今年度は滋賀県にとどまらず、全国各地から協賛、後援をいただいた。

これから紹介する協賛企画については、Sustainable Week の考え方や、当団体、当団体の企画に賛同していただいた企業様が、自身が SDGs に関心のある企業であることを参加者に知ってもらい、また、その取り組みについて興味をもってもらうことを主な目的とし、Sustainable Week 実行委員会と共同で企画を実施した。

協賛団体一覧

花王株式会社、株式会社滋賀銀行 、草津市国際交流協会

後援団体一覧

滋賀県、大津市、草津市、一般法人社団法人 環びわ湖大学・地域コンソーシアム、株式会社 YUIDEA
関西 SDGs プラットホーム、滋賀経済同友会、たねやグループ、マスク・D・フリッツ、立命館サステイナビリティ学研究センター、立命館地球環境委員会

コラム：エコプロ 2018 に出展

当団体は、2018 年 12 月 6~8 日の期間中「エコプロ 2018」に 2 年連続で出展した。企業の SDGs に対しての取り組みを視察しに行くことや、当団体の活動の幅を広げることを目的とした。

2017 年度と違い、2018 年度のテーマが SDGs であったこともあり、SDGs についての活動を取り上げる企業が増えている印象が受けた。そのため、2017 年度よりも多くの企業や大学と情報交換や、お互いの取り組みを紹介し合い、共感を得ることができた。また、一部の企業の方からは、今後の Sustainable Week を支援したいというお声や、大学生からは、共催したいというお声も頂き、今後の活動の幅を広げる機会となった。

花王国際こども環境絵画コンテスト入賞作品展 in 立命館

花王株式会社

企画内容

現在までに行われた花王国際こども環境絵画コンテストの入賞作品の一部をユニオンホールに展示した。花王株式会社が作成した「テーマパネル」「テーマ概要パネル」「環境クイズパネル」の一部を展示し、世界の諸問題について知ってもらうようにした。

企画目標

発展途上国だけでなく、先進国も積極的に取り組んでいくことが求められる SDGs について、世界中の子どもが身近な生活を通して感じたことを表現した絵画をみていただくことで、考えるきっかけを与える。

企画成果

●参加人数　99 人

参加者から「世界の子どもたちの現状を知るきっかけとなった」「今まで考えたことのなかった視点から描かれた絵画は多くの人の心に刺さり、新たな視点を与えるきっかけとなったのではないかと考えられる」などといった声が得られた。また、多くの参加者にパンフレットを手にとっていただけたことから、花王国際こども環境絵画コンテストについてより深く知っていただくことができたと感じている。

今後の目標

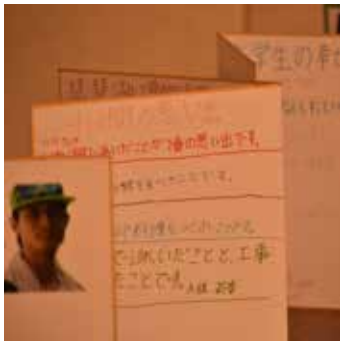
来年度も継続して展示を行いたい。また、展示する作品に対して参加者が SDGs とどのように繋がっているかという考えを提示することで多くの人に持続可能な社会や SDGs について考えてもらうきっかけを作りたいと考えている。

花王株式会社

世界の人々の喜びと満足のある豊かな生活文化を実現するとともに、社会のサステナビリティに貢献することを使命としている。私たちは、現在も、そして未来も人々の暮らしに寄り添い、企業活動全体を通して誰もが気持ちよく暮らせる社会をめざす。さらに、様々なステークホルダーと共に社会課題の解決に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献する。

みらい KIDS にぎわい交流事業 成果物展示会

立命館大学 Sustainable Week 実行委員会



企画内容

みらい KIDS にぎわい交流事業の活動と小学生が SDGs との関連・思い出をまとめたフォトコラージュを展示した。また「あなたにとって幸せとは」をテーマに幸せとは何を考え、紙に書いて貼ってもらった。

企画目標

将来を担っている子どもたちに SDGs の達成のためにできることは何かを考える機会を与えることで、持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得するようにする。

企画成果

●参加人数　60 人

子どもから大人まであらゆる世代に対して SDGs について考えることの重要性と SDGs が身近な問題であることの理解を促すことができた。また、幅広い年代へ SDGs を発信し、みらい KIDS にぎわい交流事業の認知を大学で広めることにより、事業の発展につながったと考えられる。

今後の目標

来年以降も、みらい KIDS にぎわい交流事業に関わっていくにあたり、Sustainable Week 本番で成果物を展示するだけではなく、事業に参加した小学生自らが学んだことについて発信できるような企画を考える。

みらい KIDS にぎわい交流事業　　**主催：草津市中心市街地活性化協議会**

みらい KIDS にぎわい交流事業とは、友好交流都市である滋賀県草津市と福島県伊達市との事業である。今年で 2 回目の開催であり、それぞれの市の小学 5・6 年生 22 名が滋賀県草津市にて歴史・文化・伝統や人々の暮らしに触れながら、班ごとに与えられたテーマを自分たちなりに解釈し、最終的にまとめて発表した。

革新者創造部会

滋賀経済同友会

企画内容

「未来を変える目標 SDGs アイデアブック」編集ディレクターの上田壮一氏による「未来をつくるソーシャルデザイン」の講演を問題提起とする。また、SDGs についてと新しい未来づくりをテーマにグループディスカッションを行い、グループごとに出たアイデアを発表して全体で共有する。

企画目標

SDGs について興味を持ち、その知識を幅広く知っている人を一人でも多く増やせるような場にする。また、そこで得られた知見でそれぞれが行動に移し、世界を変えて行くことを目指す。

企画成果

●参加人数　72 人

SDGs を用いて、社会人の方々と学生が同じ空間で議論を交わすことで、双方にとって広い視野を養うことができる部会となった。10 年後に自分が何をしていて世界はどのようになっているのかをイメージすることから、参加者へ自然と SDGs の重要性を促せたと考えられる。

今後の目標

参加者に対しては、全員に配布した「未来を変える目標 SDGs アイデアブック」を読んでいただくことで、さらに SDGs に関する知識や興味が深まると考えられる。また、当団体としても本企画でお世話になった方々や、新たに構築された繋がりを活かして、さらなる活動の場を広げることが出来たらと考える。

滋賀経済同友会　　連絡先：douyu25@s-douyu.jp

企業経営者が個人の資格で会員となり、地域への責任と連携のもとに、一企業や特定業種の利害を越えて自由な活動を行う。会員ひとりひとりが、幅広い視野と先見性をもって、県内外の社会経済などの諸問題について調査・研究し、その成果を政策当局、産業界をはじめ広く社会に提言を行い、自らもその実践に努めている。

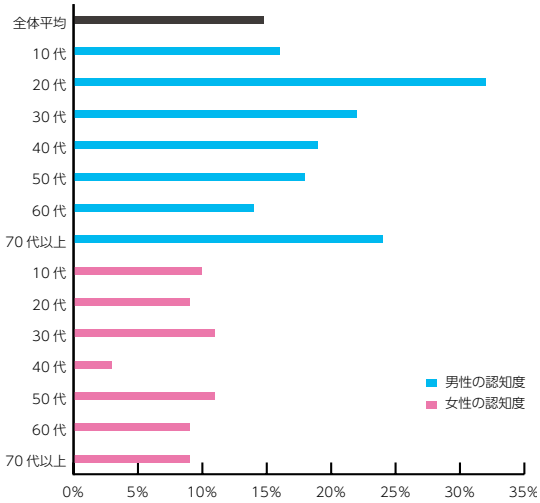
4章 Sustainable Week 2018の成果

参加者アンケートの結果、考察

日本のSDGs認知度は約15%

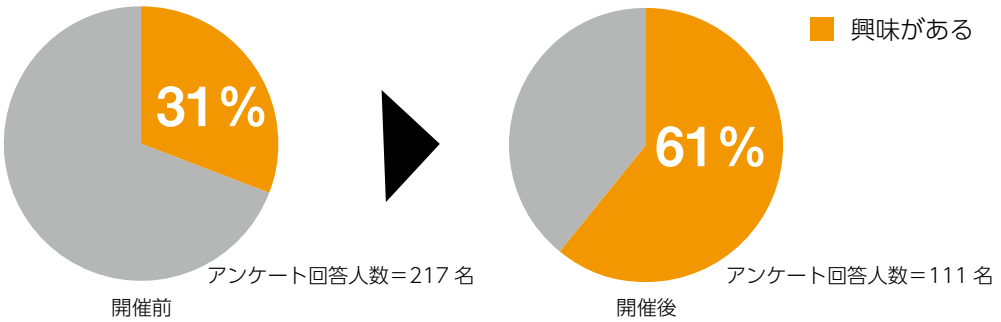
「株式会社 電通」は、2018年1～2月にSDGsの認知度調査を行った。その結果、日本のSDGs認知度は14.8%であり、男女で比較すると男性の認知度の方が高かった。特に、男性20代では3割を超える(32.0%)という。一方、女性20代は1割にも満たず（9.0%)、男女差が明らかになったという。また、世界20ヵ国地域におけるSDGsの平均認知度は51.6%で、調査自体は異なるが日本の14.8%という認知度の低さが際立っているのが現状である。

引用：『電通、「SDGsに関する生活者調査」を実施』
http://www.dentsu.co.jp/news/release/pdf-cms/2018043-0404.pdf

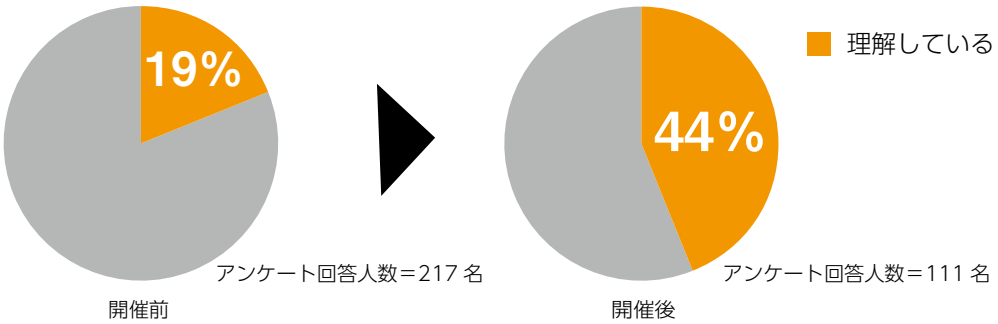


当団体事前・事後アンケート結果より

当団体が立命館大学生を対象に調査したアンケート結果では、「SDGsの関心度」が「Sustainable Week 2018」開催後では61%と日本のSDGs認知度よりもはるかに上回る結果となった。（アンケート結果1）また、「SDGsの理解度」に関しては、本企画を通じて、約半数の学生にSDGsをある程度理解していただくことができた。（アンケート結果2）今後は、SDGsの認知度が90%を超えることを目標に活動を続けていきたいと考えている。



アンケート結果1：SDGsに関心がありますか？



アンケート結果2：SDGsを理解していますか？

関係者講評

立命館大学総務部 BKC 地域連携課　課長　井上　拓也 氏

プロスポーツ界では「2 年目のジンクス」という言葉が使われることがあります。大活躍した 1 年目に比べ、2 年目は成績が伸び悩むというものですが、Sustainable Week については、こんな言葉を感じさせない前年をさらにスケールアップした取り組みになりました。

Sustainable Week は自分たちが普段通うキャンパスを地球に見立て、自分たちに何ができるかを問うという大変独創的なものでした。この到達点を踏まえて今年は 1 イベントに終わらせずにプレイベントから含めて年間を通じて SDGs の啓発・促進に取り組めたことは大変な困難や苦労があったと思う一方で、大きな飛躍であったとも思います。

今、大学は個々の専門領域に閉じたものではなく、専門の領域の枠を越えて地域や国際社会が抱える社会的課題の解決にどう向きあえるかが問われています。Sustainable Week はこのことに正面から向き合い、SDGs を媒介として学部、研究科、大学の枠を越えて自分たちに何ができるか真剣に向き合っています。自らが動き共感する人々を巻き込む姿勢がこれまでのヨコのつながりに加えタテの連携、すなわち行政、経済団体、企業そして小中高などの教育機関からも多くの賛同と評価を得ることにつながりました。その結果、活動のフィールドはキャンパス外にも大きく拡がりました。

SDGs の考え方は決して目新しいものではなく、実は自分の身近なところでもすでに取り組んでいるものも多くあるはずです。しかし、そのことがまだ十分に理解されておらず啓発の域を脱しきれていないことも現実です。今後も SW が具体的な実践事例を増やして、さらに多くの実践者を巻き込んでいく活動になればと思います。

最後に、この企画に関わった皆さんひとりひとりが「SDGs leader」として今後も引き続き活躍されることを期待しています。

コラム：三方 (企業・地域・学生) で Sustainable Week 2018 を振り返る

Sustainable Week 2018 終了後、2018 年度でお世話になった企業や行政、学校職員をお招きし、2018 年度の活動を振り返る「SDGs を『三方よし』で考えよう！～企業・地域・学生で取り組む Sustainable Week ～」を 2018 年 11 月 26 日に開催した。

当日は一般参加者に加え、草津市国際交流協会 KIFA、UDCBK の職員、草津市・滋賀県職員の方々、立命館大学からは地域連携課や学生オフィスや教員の方々にお越しいただいた。はじめに「Sustainable Week 2018」の取り組みを紹介し、「Sustainable Week 2018 の課題とはなにか？」についてグループディスカッションを行った。その後、「Sustainable Week 2018」のアンケート結果を共有し、私達が感じた課題と関係者が感じた課題を比較し、その後、Sustainable Week 2019 実行委員長の亀石から 2019 年度の展望の説明があり、「今後の SDGs イベントの在り方」についてもう一度グループディスカッションを行い、最後に全体共有と Sustainable Week を懇意にしてくださった職員の方から総括のお言葉をいただいた。

今回の企画は Sustainable Week 2018 の達成できた点はもちろん、課題や改善点もたくさん見つけることができた。今回の企画で新たに発見した課題や頂いた意見を参考に、2019 年度も活動を進めて行きたいと考えている。

5 章 Sustainable Week 2018 を終えて

Sustainable Week 2018 総評

Sustainable Week 2018 に取組んだ学生諸君に、サポートした教職員を代表して一言メッセージを送る。

Sustainable Week は今年度で 2 年目を迎え、昨年度同様に “SDGs” を主題において、昨年度とは全く異なる組織体制で、新しい取組みに挑戦した。特に女子大学生（生命科学部 3 回生の切田さん）をリーダーとして実行委員会を組織し、昨年にやや課題とした “ 参加者の多様化 ” に真っ向から取組んだ。昨年は市民を巻込む企画を推進していたが、今年度特に重視したのは、“ 留学生と附属校生（高校生）” との共同企画である。

附属校生との共同企画は、自治体（草津市など）や企業（花王株式会社など）のバックアップを受けて Sustainble Week 2018 前企画として実施され、メインイベントを盛り上げるのに十分貢献した。留学生を巻込む共同企画では、食糧問題にフォーカスし、国や宗教を越えて “ 誰でも食べられる新しいカレー ” づくりに挑戦していた。頭で考えるよりも、行動や形で示すことに全力を投じていたことが印象的である。学園メンバーの可能性は本当に “ 無限大 ” である。彼ら、彼女らの努力に敬意を持って、これらの企画成功に心から祝意を表したい。

SW 実行委員会の顧問として、あるいは人生の先輩として、彼らには幾つかのアドバイスをしてきた。その多くは昨年と同じ、“ 社会のルール ” や “ 大人や組織が定義する成功 ” への打算である。しかし、決して順風満帆で準備が進んでいたとは言えない。皆で意思統一を図り、ペースを合わせて行動していくことの難しさを痛感したに違いない。でも、みんな元気があり、素直であり、支えあいながら決して諦めずに何とかしようと努力していた。こういった前向き指向は若者ならではと感じ、大人社会でも学ぶことが大いにあると感じた。

さて、取組んだ学生たちにとって本当に得られた財産は何であったであろうか？　思いを共有し、社会のために何か起こそうと努力した結果、自身や友人の人生を変える運命に出会えたこと、“ 本当の財産 ” は当事者である学生自身が知っているし、それが本当に役立つのはこれからである。

最後に、今回主体となって取組んだ彼らの今後にも、意思を継いでいくであろう後輩たちの行動にもとても興味がある。教員にとって最も重要な使命は、十人十色である学生の夢を教え育んで “ 個性の開花 ” をサポートし続けることだと考えている。みな自分自身の壁を越えて、“ 自らの思い “ で新たな道をしっかりと歩んでほしい。これからも教員はわき役として、主役の活躍を支えていきたい。　みんなのこれからの活躍を心から期待する！

2019 年 2 月 吉日
立命館大学 Sustainable Week 実行委員会　顧問
立命館大学　理工学部　環境都市システム工学科　准教授
佐藤　圭輔

2019 年度について

Sustainable Weekもいよいよ３年目になります。これまでの２年間で培った経験とノウハウを存分に活かし、Sustainable Week 2019 の開催に向けて準備を進めていきます。　引き続き学生主体の SDGs 体験型イベントとして BKC を中心に開催していくことを考えています。これまで学生、地域の方や行政・企業とともに SDGs 達成に向けた取り組みを行ってきましたが、教職員や校友も巻き込んで取り組んでいきたいと思います。

2019 年は「SDGs ネットワークの拡大」と「プロジェクト・企画を持続可能なものへ」の 2 つを意識していきたいと思います。

2019 VISION 1「SDGs ネットワークの拡大」

当団体は SDGs リーダーの育成がミッションでもあります。実行委員会に集まる学生たちは次世代の社会を創るリーダーを目指すべく、自分自身の核となるものを持ち多様な人々を巻き込んでチームを構築していくことが理想の姿です。学生 (団体) をはじめ教職員の方や地域の方、他大学や企業様を巻き込んでいき SDGs ネットワークを拡大することで、SDGs の実践者を増やせばおのずと社会はよい方向に向かうはずです。

2019 VISION 2「プロジェクト・企画を持続可能なものへ」

これまで２回のSustainable Weekでは、一定期間のイベントのためだけに学生団体などを巻き込んで企画立案と実行を行ってきましたが、持続可能性の観点にはまだ課題が見受けられるように感じました。一度だけやって終わってしまうというのは、単なる啓発活動でしかありません。理想はやはり、Sustainable Week がこれまでの成果報告や実施してきたことの体験の場所となり、参加者が活動を知って参画するきっかけになることだと考えています。そうすれば、大学という 4 年という限られた時間の中で企画やプロジェクトを担う学生が循環的に現れ、取り組み自体も持続可能なものになっていくでしょう。

2019 年は立命館大学校友会創設 100 周年記念の年でもあり、4 月には学校法人立命館での SDGs の取り組みが始まる予定です。そんな節目の年に、これまでと一味違った Sustainable Week を開催できればと思います。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

Sustainable Week 2019 実行委員長
立命館大学　スポーツ健康科学部 2 回生
亀石　弥都

謝辞

今回で 2 回目となる Sustainable Week 2018 の開催にあたりご協力、ご支援いただいた皆様に感謝、御礼申し上げます。今年度は、立命館大学内だけでなく、他大学の学生団体や企業、行政の方にご参加頂き、少しずつ「SDGs」「大学生」と言えば、Sustainable Week とまで言われるようになったかなと思います。今年は、テーマを「We are SDGs leaders,」ということで、自分たちが SDGs を啓発しながら、SDGs に積極的に取り組んでいくメッセージを発信してきました。また、Sustainable Week2018 開会式では、三日月滋賀県知事、仲谷立命館副総長 (現・総長) とのパネルディスカッションにより SDGs にこれから取り組んでいくリーダーとの意見交換など印象的でした。さらに、社会での SDGs 理解度の向上に伴い、SDGs に関する講演や企画の依頼が増えたことは大変光栄でした。多くの方に SDGs に関する様々な機会を頂きながら志を共にする仲間が増えたことが何よりもうれしいことでした。これからも当団体のビジョンである大学を核とした、増殖型 SDGs エコシステムを実現していきたいと思います。また、これから活動をするにあたって、来年度のキーワードは「0 → 1.1」「発信」「コラボレーション」だと考えています。最後になりましたが、来年度以降も当団体の活動にご支援、ご協力お願い致します。

立命館大学 Sustainable Week 実行委員会 Founder
立命館大学　生命科学部　5 回生
上田　隼也

2018 年活動の軌跡

3 月 10 日	朝日新聞社主催「大学 SDGs ACTION AWARDS」にてグランプリ　受賞
3 月 20 日	東大・京大ワークショップ　開催
4 月 23、25、27 日	プレイベント　開催
5 月 1 日	立命館地球市民会議　開催
6 月 6 日	朝日新聞「SDGs、一緒に考える」 掲載
6 月 6 日	えふえむ草津「マイウオッチくさつ」 出演
6 月 16、17 日	Towards Sustainable Week 2018　～立命館から世界へ～　開催
8 月 6 日	中日新聞「草津と福島の児童ら交流　環境問題など議論」 掲載
8 月 25、26 日	みんなの未来フェスティバル　出展
9 月 8、15 日	FM　OSAKA 「第 19 回　OH! てらさんぽ　聖護院後」 前編後編　出演
10 月 1 日	朝日新聞「SDGs　ACTION! ②」 掲載
10 月 12 日	京都新聞 「持続可能な開発　身近に」 掲載
10 月 14、15、16 日	Sustainable Week 2018　開催
10 月 20 日	オール立命館校友大会　出展
11 月 9 日	えふえむ草津　みなくさまつりの広報　出演
11 月 14 日	Rits Super Global Forum にて SDGs カレー　提供
11 月 17 日	サステイナブルキャンパス推進協議会　（CAS-Net JAPAN）主催 第 4 回サステイナブルキャンパス賞「学生活動・地域連携部門」 受賞 CAS-Net JAPAN2018 年次大会にてサステイナブルキャンパス奨励賞　受賞
11 月 18 日	大津 SDGs フェスタ　出展
11 月 18 日	みなくさまつり　立命館大学ブース統括
12 月 1 日	Korean Association for Green Campus Initiative（KAGCI） 第 4 回サステイナブルキャンパス・アジア国際会議（ACCS）にて Excellent Incentive Award　受賞

表紙・裏表紙デザイン

この度、「Sustainable Week 2018 報告書」の表紙・裏表紙のデザインを担当させていただくにあたり、SDGs について考える良いきっかけになったと感じています。私自身 SDGs については、西日本工業大学の「北九州学」という講義の中で知る機会があり、強く印象に残っています。
今回デザインさせていただくにあたり、私なりの想いを込めさせていただきました。表紙は日本、裏表紙は世界の「17 の達成目標」を塔のように表しています。17 の達成目標のうち、どの項目が高くてどの項目が低いのか、色や塔の高さで照らし合わせてみてください。日本や世界の課題に気づくはずです。みんなで世界を良くするために必要なものは、一人ひとりの「気づき」です。照らし合わせることで見えてきた小さな「気づき」をどうか大切にしていただければ幸いです。
最後に、今回のデザインを担当するにあたり 2018 年度実行委員長の切田さんをはじめ、実行委員会のメンバーの方々に SDGs に関する知見をいただきました。私自身もこれから SDGs の達成を意識して少しでも活動に貢献できればと考えています。これからも Sustainable Week のご活躍を応援しています。

西日本工業大学　デザイン学部
情報デザイン学科　2 回生
藤本隆志

主催	立命館大学 Sustainable Week 実行委員会
協賛	花王株式会社 / 株式会社 滋賀銀行 / 草津市国際交流協会（KIFA）
後援	滋賀県 / 大津市 / 草津市 / 一般社団法人 環びわ湖大学・地域コンソーシアム / 株式会社 YUIDEA 関西 SDGs プラットフォーム / 滋賀経済同友会 / たねやグループ / マスク・D・フリッツ 立命館サステイナビリティ学研究センター / 立命館地球環境委員会
参加団体	アカペラサークル Song-genics / 音響工学研究会 / カラーガードサークル LUSTER 建築環境・設備系研究室 / Ritree（緑化プロジェクト）/ 問題解決は SDGs を理解した後で実行委員会 立命館大学国際平和ミュージアム / 立命館大学 AVA(AthleteVolunteer Association) 立命館大学ロボット技術研究会 / ライフサイエンス研究会 / All In One Lab BKC インキュベータ 28 期インターン生 / CUBE プロジェクト / Ein Stück Projekt / FB + 1 Handwasher / OECD 学生大使 SOIL & SOUL / STEP ～ Science & Technology English Presentation ～ TaBiwa + R / Topas / Why Japanese People
学外協力団体	アイセック滋賀大学委員会 / SDGs Global Youth Innovators 特定非営利活動法人グローバルな学びのコミュニティ・留学フェローシップ

立命館大学 Sustainable Week 2018 活動報告書

We are SDGs leaders,

発行日	2019 年 3 月 9 日
発行	立命館大学 Sustainable Week 実行委員会

著者	切田 澄礼（立命館大学生命科学部 3 回生） 松村 有真（立命館大学理工学部 3 回生） 織田 紗雪（立命館大学生命科学部 3 回生） 岡嶋 健太（立命館大学経済学部 4 回生）
住所	〒 525-8577 滋賀県草津市野路東 1-1-1
連絡先	sustainableweek@gmail.com

本書に掲載されている所属及び役職は 2019 年 3 月時点のものです。

この報告書に関するご意見･ご感想をメールでお寄せいただく場合は上記連絡先までお願いいたします。

無断複写・無断転載を禁じます。

SUSTAINABLE WEEK

SUSTAINABLE WEEK SUPPORTS SDGs

Japan. Committed to SDGs

RITSUMEIKAN

立命館大学 Sustainable Week 実行委員会は、2018 年度学びのコミュニティ集団形成助成金・滋賀県内 SDGs 普及促進事業など支援補助金 採用団体です。